

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

1 モニタリング状況（参考数値）

集計期間：令和3年1月25日（月）～1月31日（日）

指標		数値	前週	目安基準
(1)	直近1週間の新規陽性者数	425人	596人	—
(2)	直近1週間の人口10万人当たりの累積新規陽性者数 (陽性者数/(153万人/10万人))	27.78人	38.95人	2.5人未満 (※1)
(3)	週当たりの陽性者増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数)	0.71	0.69	<1(※2)
(4)	直近1週間の感染経路不明者の割合 (感染経路不明者数/陽性者数)	40%	45%	50%未満 (※3)
(5)	直近1週間の陽性率(※4) (陽性者数/検査実施人数)	8.76%	9.88%	—
(6)	入院中の患者数(※5) (疑似症患者を含む)	158人	182人	感染症患者受入病床 279床
(7)	入院中の患者のうち重症者数(※5) (疑似症患者を含む)	21人	23人	重症病床 30床
(8)	全療養者数(※5)(入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計(疑似症患者は含まない))	2399人	2901人	—

これらの数値は、速報値として公表するものです。

※1 神奈川県警戒アラート指標の基準を準用

※2 新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言(新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」)より引用

※3 神奈川県の再警戒モニタリング指標の基準を準用
(再警戒基準：新規陽性者数が10人以上の時、50%以上)

※4 健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出(本市発表外陽性者も含む)

※5 1月31日(日)現在の報告数(前週分は、1月24日(日)現在の報告数)

2 評価

令和3年1月25日(月)～1月31日(日)の川崎市内におけるモニタリング状況は、

- (1) 新規陽性者数は、前々々週1123人をピークに、前々週869人、前週596人、今週425人と3週連続で減少しました。
- (2) 直近1週間の人口10万人あたりの累積新規陽性者数も、前々々週73.40人をピーク

に、前々週 56.80 人、前週 38.95 人、今週 27.78 人と 3 週連続で減少しました。目安基準は 2.5 人未満ですので、これに対しては依然高値となっています。

- (3) 週当たりの陽性者増加比も、前々々週 2.08 をピークに、前々週 0.77、前週 0.69、今週 0.71 と 3 週連続で減少し、目安基準 < 1 を下回っています。
- (4) 直近 1 週間の感染経路不明者の割合は、前々々週から減少を見せ 52%、前々週 50%、前週 45%、今週 40% と 4 週連続して低下し、前週から目安基準 50% 未満を下回るようになりました。
- (5) 直近 1 週間の検査陽性率も、前々々週 19.16%、前々週 15.85%、前週 9.88%、今週は 8.76% と 4 週連続して低下しました。
- (6) 入院中の患者数は前々々週 170 人、前々週 170 人、前週は 182 人と増加していましたが、今週は 158 人と減少しました。
- (7) 入院患者のうち重症者数は、前々々週 31 人をピークとして、前々週 22 人、前週 23 人、今週 21 人と減少しているものの減少傾向はとどまっています。
- (8) 全療養者数（入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計）は前々々週 1980 人、前々週 2489 人、そして前週は 2901 人と急増しましたが、今週は 2399 人と減少し、前々週のレベルに戻りました。

(1) 全体の新規感染者数、(2) 直近 1 週間の人口 10 万人当たりの累積新規陽性者数、(3) 週当たりの陽性者増加比、は 3 週連続して、(4) 直近 1 週間の感染経路不明者の割合、(5) 直近 1 週間の検査陽性率は、4 週続けて減少となりました。

また、増加が続いていた (6) 入院中の患者数、(7) 重症患者数、(8) 全療養者数は、(7) については前々々週をピークに、(6) (8) についても前週をピークに減少傾向となりました。

年末から年始にかけて増加傾向にあった川崎市内の新型コロナウイルス感染者の状況は、お正月が明けた連休過ぎあたりから減少が始まり、今週はすべての指標が減少となりました。年始めの人の流れの減少の影響による感染者の減少に加えて、その後に発令された緊急事態宣言の効果といってよいと思いますが、多くの方が多大な我慢、注意をして頂いたおかげで、減少傾向が顕著になったと言えます。また入院患者数、その中の重症者数、全療養患者数は前週まで増加の一途でしたが、全体の感染者数減少の効果が現れ、これらも減少傾向に転じました。

今週すべての指標に減少傾向がみられたのは、まさに多くの方のご理解とご協力の賜物です。これが一時的な現象ではなく、さらに感染者数が落ち着き、重症患者発生が少なくなり、一般の医療に心配がなくなり、そして経済状況が続いて回復できるためには、ここで気が緩んでしまうと 12 月下旬の状態に戻ってしまう可能性がありますので、もう少々重ねてご協力の継続をお願いいたします。

肝心なことは、引き続き三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時はマスクをつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなど、日常生活における基本的な、そして重要な注意です。川崎市における皆様のこれらの何気ない注意が、感染者数を増やさないこと、ひいては重症者数を減らすことに効果が現われています。感染を警戒するあまり家の中に閉じこ

もり切りになる必要はありませんが、どちらかへお出かけになるときには、混雑する場所や時間帯はできるだけ避けて、家族単位などの少人数でゆっくりと、しかし長時間にわたることなく過ごされるよう重ねてお願いいたします。

なお、市内のインフルエンザ定点から毎週報告を頂いているインフルエンザの発生動向につきましては、2020年第36週（8月31日～9月6日）～2020年第53週（12月28日～1月3日）の市内インフルエンザ報告数は3に留まっていました。

2021年第1週（1月4日～1月10日）の報告数は0、2021年第2週（1月11日～1月17日）は2、第3週（1月18日～1月24日）の報告は1であり、依然極めて少ない状況が続いています。